

☆話題—アニマルウェルフェアとと畜場

近年、欧米ではアニマルウェルフェア(動物福祉)の考えが広く浸透してきており、と畜場での家畜の取り扱いについてもできるだけ快適な環境で係留させるように配慮されているようです。自由飲水や苦痛の排除、十分な待機スペースの確保はもちろん、家畜が普段歩くより早く歩くよう追い立ててはならないとか通路は急カーブを必要とする構造を避けなければならないといった決まりもあるとのこと。日本でも動物福祉の考えは広がりを見せてはいますが、残念ながら日本のと畜場での現状は欧米の足元にも及ばない所が少なくありません。

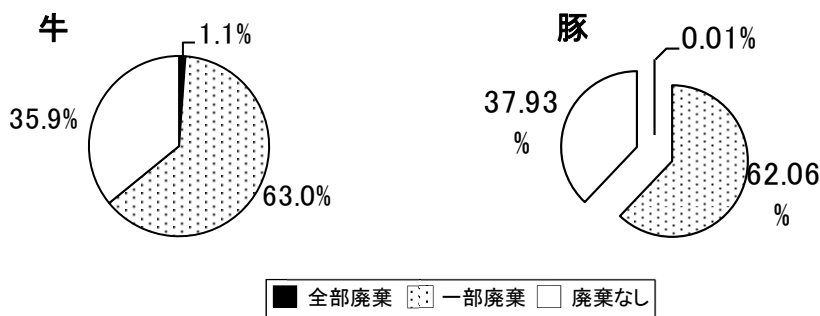
我々の日々の食生活を支えてくれる家畜たちに感謝を示す意味でも、動物福祉の考えを推進していきたいものです。(F)

☆と畜検査状況

◎と畜検査頭数および廃棄の原因 (令和3年10月～12月)

畜種	牛		とく		豚		山羊	
	全部廃棄	一部廃棄	全部廃棄	一部廃棄	全部廃棄	一部廃棄	全部廃棄	一部廃棄
と畜検査頭数	1,572		1		17,058		0	
実頭数	18	990	0	1	2	10,586	0	0
廃棄の原因	放線菌症	0	0	0	0	0	0	0
	ミコバクテリウム症	0	0	0	0	0	21	0
	ジストマ	0	0	0	0	0	0	0
	寄生虫症	0	0	0	0	0	0	0
	膿毒症	1	0	0	0	2	0	0
	敗血症	2	0	0	0	0	0	0
	尿毒症	0	0	0	0	0	0	0
	黄疸	0	0	0	0	0	0	0
	水腫	7	175	0	0	0	47	0
	腫瘍	1	0	0	0	0	0	0
	炎症汚染	0	682	0	1	0	7,154	0
	変性萎縮	0	459	0	0	0	4,040	0
	牛伝染性リンパ腫	7	0	0	0	0	0	0
	豚丹毒	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	154	0	0	0	1,557	0	
計	18	1,470	0	1	2	12,819	0	0

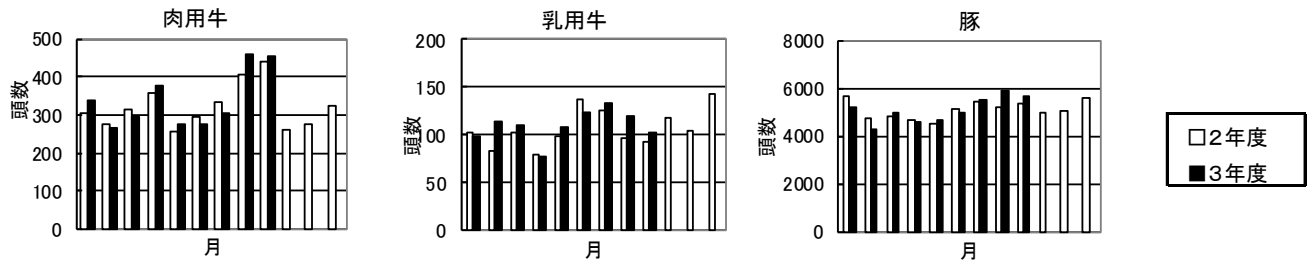
一部廃棄は原因が複数にわたる場合があり、廃棄の原因の合計が実頭数を上回ることがある。



◎と畜検査頭数の推移（令和3年度）（とくを除く）

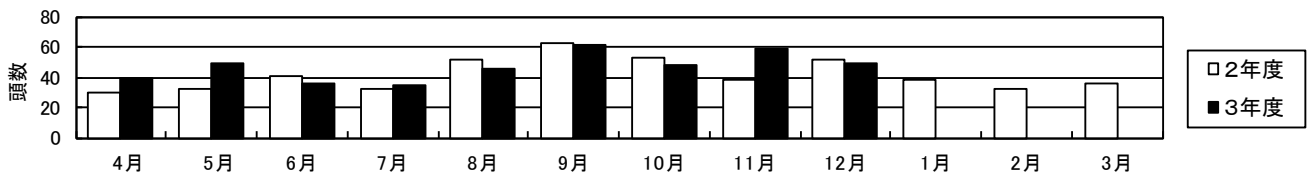
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2年度肉用牛	304	275	315	357	258	295	332	408	439	260	276	324	3,843
3年度肉用牛	338	266	293	379	276	274	305	461	454				3,046
前年比(%)	111.2	96.7	93.0	106.2	107.0	92.9	91.9	113.0	103.4	0.0	0.0	0.0	79.3
2年度乳用牛	101	82	102	78	98	137	124	96	92	117	103	143	1,273
3年度乳用牛	98	114	109	76	108	122	132	119	101				979
前年比(%)	97.0	139.0	106.9	97.4	110.2	89.1	106.5	124.0	109.8	0.0	0.0	0.0	76.9
2年度豚	5635	4711	4847	4705	4482	5111	5432	5180	5403	4991	5067	5578	61,142
3年度豚	5244	4260	5006	4573	4657	4995	5521	5879	5658				45,793
前年比(%)	93.1	90.4	103.3	97.2	103.9	97.7	101.6	113.5	104.7	0.0	0.0	0.0	74.9

肉用牛は黒毛和種、交雑種等、乳用牛はホルスタイン種、ジャージー種等である。



◎病獣畜と畜検査頭数(令和3年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2年度	30	32	41	32	52	62	53	38	52	38	32	36	498
3年度	40	49	36	34	46	61	48	59	49				422
前年比(%)	133.3	153.1	87.8	106.3	88.5	98.4	90.6	155.3	94.2	0.0	0.0	0.0	84.7



10月～12月の病獣畜156頭の内訳は、すべて牛およびとくであった。

◎時間帯別病獣畜と畜検査頭数(令和3年10月～12月)

受付時間	頭数	うち緊急性		頭数割合(%)
		なし	あり	
(時間外)6:00～8:30	1	0	1	0.6
(時間内)8:30～14:00	155	145	10	99.4
(時間外)14:00～16:00	0	0	0	0.0
16:00～20:00	0	0	0	0.0
土曜日等	0	0	0	0.0
合計	156	145	11	

※土曜日等に病獣畜が搬入されるのは、死に瀕している等、緊急性を要する場合のみである。

◎地域別病獣畜と畜検査頭数(令和3年10月～12月)

地域	岡山	東備	倉敷	井笠	高梁	阿新	真庭	津山	勝英	県外	場内	計
頭数	36	2	2	91	11	2	4	5	2	0	1	156
(うち時間外)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)	(1)
頭数割合(%)	23.1	1.3	1.3	58.3	7.1	1.3	2.6	3.2	1.3	0.0	0.6	

☆検査室等における精密検査（令和3年10月～12月）

畜種	疑頭数	疾病名	検査件数						診定頭数	否診定頭数	畜種	疑頭数	疾病名	検査件数						診定頭数	否診定頭数		
			肉眼	鏡検	培養	血清反応	理化学	遺伝子						病理組織	肉眼	鏡検	培養	血清反応	理化学			遺伝子	病理組織
牛 及 び と く	3	敗血症			3				2	1	豚	0	敗血症						0	0			
	1	膿毒症	1						1	0		2	膿毒症	2					2	0			
	2	尿毒症						2	0	2		1	尿毒症				1		0	1			
	0	高度の黄疸							0	0		0	高度の黄疸						0	0			
	7	高度の水腫	7						7	0		0	高度の水腫						0	0			
	9	牛伝染性リンパ腫						9	6	88		7	2	0	豚丹毒					0	0		
	1	腫瘍の多発							10	1		0	0	白血病					0	0			
	23	計		8	0	3	0	11	6	98		18	5	3	計		2	0	0	0	1	0	0

解体検査で判定困難な疾病について、精密検査を実施し、食用の適否を判定している。

◎残留有害物質検査（令和3年10月～12月）

・保留畜・病畜スクリーニング

畜種	区分	検査頭数	検査検体数	陰性頭数	陽性頭数	陽性検体数					陰性検体数
						筋肉	腎臓	注射痕	乳房	その他	
牛・とく	保留	2	4	2	0	0	0	0	0	0	4
	病畜	156	312	154	2	0	2	0	0	0	310
豚	保留	5	10	5	0	0	0	0	0	0	10
	病畜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山羊	保留	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	病畜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

病畜牛の腎臓2検体において、直接法陽性であった。

・一般畜モニタリング

畜種	検査頭数	検査検体数	陰性頭数	陽性頭数
牛	6	12	6	0
豚	30	60	30	0
鶏	1	2	1	0

◎BSE（牛海綿状脳症）スクリーニング検査

令和3年10月～12月におけるBSEスクリーニング検査数は0件であった。

（平成29年4月1日以降、月齢24か月以上で、原因不明の神経症状及び起立不能を呈する牛を対象に実施）

発行：岡山市食肉衛生検査所
 TEL：086-272-8399 FAX：086-273-2019
 E-mail：shokunikueiseikensasho@city.okayama.lg.jp
 「枝肉を全部廃棄した牛の解体所見」のメール配信希望等、ご意見、ご要望
 ありましたらお気軽にご連絡ください。